

# 第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

団体名	NPO 法人ちば環境情報センター
活動タイトル	いのちのにぎわいとつながりをいつまでも
活動地域	日本 千葉県千葉市



6/2 吹春俊光氏を講師にキノコ観察会。21名



7/22 川遊び。外来種のザリガニの説明。58人



9/2 ハエヌキの稲刈り

## 【団体概要】

「気づいた人ができることから」をモットーに環境保全活動情報の発信により環境問題への関心を行動につなげる取組を進めてきた。関東・水と緑のネットワーク拠点百選、環境省生物多様性保全上重要な里地里山に選定された谷津田を守るため、自然観察会、生きもの田んぼ、森と水辺の手入れを続けている。

## 【活動の目的・目標】

広報に努力し仲間を増やす。谷津田の重要性への理解が深まること。外来種等の監視・対策強化。地元の方との交流で、谷津田が生物多様性保全上重要な地域であることについて地元の方々にも理解が深まること。保全のためのゾーニング計画を市民の手で作成し、関心を高めて開発から少しでも自然を守る。

## 【今回の活動で苦勞した/工夫したこと】

大規模開発計画を多くの人に知らせ、環境影響評価方法書の説明会への参加や意見書提出等により多くの方に参加していただくよう広報に努力・工夫した。

キツネなどの貴重種が発見されたことを広く知らせることと保護する立場から、運営委員間で十分な協議を行い、保全のためにどうしたらよいか、より効果的な取り組みを工夫した。

## 【活動の内容・成果】

**開催回数：**自然観察会 6 回、米作り 8 回、森の手入れ 5 回、お楽しみ会 1 回、谷津田保全ゾーニング計画ワークショップ 1 回、イベント情報誌発行 6 回、生きもの暦編集会議 1 回、地元の方との交流 随時、外来種駆除ための罠・赤外線カメラ設置 継続

**参加人数：**自然観察会 103 人、米作り 178 人、森の手入れ 30 人、お楽しみ会 58 人、イベント情報誌 36 人、生きもの暦 8 人、ゾーニングワークショップ 8 人 **合計 421 人**

**達成率：**目標 200 人に対し **210.5%**

**成果：**2023 年 2 月のキツネ確認に加え、環境省レッドリストで絶滅危惧Ⅱ類のミゾゴイも発見された。地道な保全活動の継続が生物多様性の回復につながったものと思われる。

## 第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

こちらに、1ページ目の以外の活動写真を添付し、右側に説明をご記入下さい。



4/2 新緑の美しい谷津田で観察会。  
ウラシマソウやシュンランの花、カンアオイの群生、トリカブトも復活して観察できた。シュレーゲルアオガエルが大合唱、メダカも活発に活動していました。しかし谷津田の下流部ではイノシシやアライグマの足跡が多く見られました。参加者17名（大人10名、学生2名、小学生3名、幼児2名）



5/6 生きもの田んぼでの田植え。苗床をつくり種まきをして育てた稲の苗を植えました。上の田はうるち米の山形はえぬき、下は古代米（赤米、黒米、緑米）と農林1号。  
昼食後は恒例の谷津田運動会で『だんごコロコロ』。子どもたちは泥団子で大盛り上がり。参加者52名（大人30名、大学生1名、高校生2名、中学生2名、小学生16名、幼児1名）



6/4 開発問題についてご相談した日本生態系協会の亀田聡さんが現地を見に来てくださいました。千葉市で35年ぶりに記録されたキツネを撮影した赤外線カメラやアライグマの罠を確認。森に入ってニホンミツバチの巣やトモエソウなどを観察しました。ホトトギスが雌雄で鳴き交わすのが聞こえ、近づく夏を感じる1日でした。参加者9名（大人9名）



6/18 落ち葉がたまって排水が流れないため、定期的にU字溝の清掃を行っています。また畔や観察ルート of 草刈りをおこないました。木が伐採された山ではお楽しみの畑作り。ジャガイモを収穫したあとサツマイモの苗を植えました。みんな秋の収穫が楽しみです。参加者6（大人5名、小学生1名）